

ウナギの標準和名変更

シラスウナギの不漁を受けて、外国から、別種のウナギが輸入される時代になりました。

これを受けて、従来から「ウナギ」と呼ばれていた在来種を「ニホンウナギ」と改名して輸入種と区別することとなった旨、水産庁から通達がありました。



ウナギの遺伝情報を活用した資源管理検討会

六月十四日、(独)水産総合研究センター中央水産研究所主催による、標記の計画検討会が横浜みなとみらいで開催されました。

これは、海外から「異種ウナギ」が輸入され、国内でも流通や養殖が現実的になったことから、水産庁研究指導課が予算化し、中央水産研究所を中核機関として、増養殖研究所、学校法人北里研究所、同東京医科大学、同東京大学及び(一社)マリンフォーラム二十一がプロジェクトを組んで、ニホンウナギと異種ウナギの判

別法の開発を目指して日本に來遊するシラスウナギが同一の系群であるのか、また養殖に適した形質を備えた親ウナギの選別技術、更にはシラスウナギを傷つけずに異種ウナギであるか否かを判別する技術を開発しようとするものです。

これによって、台湾や日本各地に來遊するニホンウナギの來遊の時期に差があるものの単一の系群であるかを確認するとともに、養殖に適した親ウナギを判別して人工種苗生産の効率化を目指すこととしています。また、世界に十九種いるウナギのシラスが日本に輸入されて養殖される時代を反映して、それらの種類を水際で区別する技術について開発し、異種ウナギが国内のウナギに混ざって飼育・出荷されることを避けようとするものです。

この研究は、緊急を要することから最先端の技術と知見を集め、二年間で結論を出すことを目標に取り組むことになっています。

この事業には、各研究機関総勢二十二人の研究者が調査研究に当たり研究計画の進め方について意見交換が行われました。研究推進に当たっては、琉球大学の西田副学長と九州大学大学院の望岡準教授、及び現場からの代表として全内漁連の大越専務が評価委員となり、情報提供と研究助言を行いました。

この後、早速サンプルの収集や分析手法の開発に当たることとなりました。こゝとは急を要することから、早い時期に成果を得られることが期待されています。

特許取得番号 第 3679968 号

国土交通省新技術提供システム
NETIS 登録番号 QS-100035-A

環境配慮型濁水処理フィルター工法
バイオログ ナチュラルフィルター

BIOLOG
F I L T E R

天然素材で、簡単・スピーディに濁水処理。

- ヤシ繊維 100%から成るフィルター
- 簡単施工で必要な時に即対応
- 薬剤を使用しない環境配慮型工法



発注者：大分県企業局
河川名：一級河川五ヶ瀬川水系北川
組合名：北川内水面漁業協同組合

「使用目的」
北川ダムの維持工事で発生する工事濁水による河川環境への負荷軽減対策の一環として使用しました。

WESCOOT

株式会社 ウェスコット ウェスト

〒164-0001 東京都中野区中野3-33-3インツマビル3F
TEL 03-3383-7291(代) FAX 03-3383-2936
URL www.wescotwest.com E-mail otelwase@wescotwest.com